

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402374		
法人名	有限会社 アプリーレ		
事業所名	グループホームあさひが森		
所在地	長崎県南島原市布津町甲489番地		
自己評価作成日	令和 元年 9月 5日	評価結果市町村受理日	令和元年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、代表者が長年、地域の保育園を運営しており、保育園児や学童保育との交流が気軽に実施できる。利用者さんも年少者との交流を喜び、楽しみにしている。また、芝生付きの東屋では、祭礼の御輿を園児とともに、受け入れたり、敬老会も地域交流の場となっている。10月には、「あさひが森のつどい」を毎年開催し、地域の高齢者との交流にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは年に1回地域交流の場として「あさひが森のつどい」を開催し入居者の喜びとなっているほか、中学生の福祉体験受け入れの際には専門職の視点から福祉について伝え、体験を通じて高齢者への理解を深めることができた。地域とは各種行事をとにも取り組むほか、昨年度は消防・避難訓練に近隣住民の参加があるなど、有事の場合に備えた協力体制についても構築している。職員は入居者の生活歴を把握し尊厳保持に留意した対応に努めており、家族に対しても入居者支援記録を定期的に開示することでケア内容の可視化を図るとともに、家族から表出された意見や要望はその都度職員間で話し合い、実践することでケアの質の向上や家族の安心感へと繋げている。食事は入居者個々に合わせた形態で提供するだけでなく、配膳時に献立の説明を行うなど食を楽しむ配慮が窺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あさひが森A

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員会議の冒頭に全員で唱和し、意識付けをし、実践につなげている。	平成13年の開設当初から掲げているホーム理念は、職員会議での唱和や玄関へ掲示するほか、毎年振り返りを行うことで職員の意識付けと共有を図っている。新規採用職員には業務の中で実践を交えながら理念を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あさひが森のつどいに老人会をご案内する。地区自治会と合同の避難訓練を実施する。保育園児との交流を継続する等している。	ホームでは年に1回地域交流の場として「あさひが森のつどい」を開催し入居者の喜びとなっているほか、中学生の福祉体験の際には専門職の視点から福祉について伝え、体験を通じて高齢者への理解を深めることができた。また、地域からの介護相談や問い合わせに対応するなど地域と良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方の入所も多く、地域における認知度は、高くなっている。ホーム開設18年となり、地域の方の相談を受けることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の立場や地区民生委員さんからの意見をお聞きできる良い機会である。行政や地域駐在署よりの情報など、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は行政・民生委員・駐在所職員・家族・入居者で構成され、地域情報や防犯情報などの共有を図っている。会議では研修やヒヤリハットについて報告するほか、時季に応じた議題をもとに意見交換を行い、サービス向上に活かすよう努めている。会議内容についてはメールまたは郵送にて家族へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば、すぐに支所職員にお聞きしている。包括支援センターの方からの問い合わせ、連絡もある。	ホームは島原地域広域市町村圏組合が主催する「介護予防ボランティア・マッチング会」へ参加し、社会資源の活用などについて情報を得たり発信したりするほか、入居者関係の手続きで市役所窓口を訪れた際にはホームの実情を伝え、協力関係を築いている。また、月1回便りを郵送し、ホームの取り組みを伝えるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的にしていない。毎月1回虐待・拘束委員会を管理者、ユニットリーダーと開催し、職員は交替で研修にも出かけている。	身体拘束適正化委員会は各ユニットリーダーと管理者で2か月毎に開催し、職員会議にて共有を図っている。今年8月には身体拘束・虐待防止についての外部研修に参加し、翌月の職員会議にて伝達講習を行い支援内容の振り返りを行った。日々のケアに関しては職員で互いに注意し合い改善を図っており、内服薬については主治医と相談し不必要な服用がないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業を利用されている利用者さんがおられるので、活用を支援している。成年後見制度についても、研修を利用して理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の支援記録を、3ヶ月に一度は公開し、ご家族の意見をお聞きするようにしている。	ホームでは入居者の支援記録を面会時や3ヶ月毎に家族に開示し、家族が意見や要望を表せる機会を設けている。意見や要望はその都度職員間で話し合い、連絡帳で情報を共有しながら実践しており、入居者の生活の質の向上や笑顔に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回開き、お互いに意見交換している。	入居者支援記録を定期的の開示することにより職員の記録力や観察力が養われ、スキルアップに繋がっている。管理者は常に職員の働きやすさを考え、職員が意見を言いやすいよう日頃より職員に寄り添い、思いを汲み取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し、個別にも受講を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、研修・交流する機会がある。サービスの向上の取り組みになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者やご家族のお話をお聞きすることが、一番大切だと思っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いきなり知らない所で生活する不安を受け止め、安心感をもっていただけるような会話を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と利用者さんの困りごとを親身になってお聞きするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	多くの会話を交わして、できることは一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの職員の話も聞いていただき、互いに理解しあって、よりよい関係を作りたい。ご家族と情報交換しながら、利用者さんを支援していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム便りを送るときに、最近の利用者さんの様子をお知らせしている。馴染みの方が来られた時は、お茶を出し、ゆっくりしていただいている。	職員は入居者の家族や友人の面会時には居室にてゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。また、入居者と家族との電話や手紙のやり取りを支援するなど、繋がりを大切に支援に取り組む様子が窺える。家族には月1回ホーム便りとともに担当職員によるコメントを添えて郵送し、入居者の様子を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の聞こえが悪い方も多いので意志の疎通ができないこともある。職員が代弁したりして、トラブルを避けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族の再訪や、お便りをいただいたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時には、利用者さんやご家族の希望をお聞きしている。ホーム来所時等に、お聞きすること多い。	職員は入居者の居室を訪問しお茶を飲みながらゆっくりと話せる機会を設け、思いの把握に努めている。また、就寝時間や着替えるタイミングなど入居者一人ひとりの日課を理解しながら希望に沿った支援となるよう努めている。入居者の購入希望についてもその都度対応し、思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にお聞きした生活歴や日常の会話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの排泄リズムや食事量、食事形態を整え、日常生活の記録をし、現在の心身の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、職員、看護師を含めた意見交換を行うことで、よりよい介護計画を作成するよう努めている。	ホームでは入居者本人・家族の意向を聞き取り、入居者主体の介護計画作成に努めている。全職員参加型の介護計画とすることにより、入居者の日々の状況把握や情報共有を密に図ることができる。また、身体状況や本人・家族の要望に変化が生じた場合も見直しを行っており、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの心身の変化について、日々の情報共有が大切。その上で、月に1回はケア会議を開き、計画実践、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に応じた福祉用具のリース(購入も含め)柔軟に考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ちぎり絵を習っている職員がいて指導者として、ちぎり絵教室を開く等もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続して受診するようにしている。	ホームでは以前からのかかりつけ医を受診できるよう支援している。職員は朝昼2回のバイタルチェックにて入居者の体調管理に努めており、月1回のホーム協力医による往診の際に相談できる体制を築いている。感染症は予防接種を徹底することで危機管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師は、非常時以外は、週1回健康把握にきている。1週間の利用者さんの変化を報告し、受診した場合は主治医からの指示を看護師に伝えている。看護師の気づきは口頭とともに、看護業務日誌に記録し情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となられたときは、管理者が病院に顔を出し、病院の看護師と情報共有等している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族と今後のことも含めて話し合うようにしている。体調不良になられたとき等にも、随時話し合う。	今年度、あさひが森Bユニットにて看取りを行っており、職員は最期の時まで本人・家族の意向にできるだけ沿うことができるよう取り組んだ。ホームでは入居時に「看取り介護に関する同意書」、必要性が生じた場合には「看取りに関する医師意見書」について説明し同意を得ている。「看取りの指針」についても整備し、年1回研修会に参加し理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、外部研修に参加するようにしている。怪我をしたときは、連携看護師に連絡し処置。または指示をもらう。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	荘内、全館禁煙。年2回消防署立ち会いのもと、避難・消防訓練を実施。地域の自治会の方と合同での訓練も実施している。月に1回は、防火管理自主点検表を記録。	ホームでは年2回消防署立ち会いのもと避難・消防訓練を実施している。昨年11月の訓練では自治会長より近隣住民に向けて訓練参加を呼び掛け9名の参加があるなど、地域との協力体制を構築している。職員は水消火器訓練を年3回実施するほか、月1回エアコンの手入れ・点検を行うなど環境整備にも力を入れている。	現在ホームでは消防・避難訓練は実施しているが風水害訓練については未実施の状況にあるため、情報収集訓練など更なる入居者の安全を確保するための取り組みに期待したい。また、今年度は台風による停電の際対応に苦慮したとのことだったため、課題として挙げた点を踏まえたマニュアルの整備が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんを年長者として、尊敬し、言葉遣いも注意している。利用者さんによっては、馴染みの言葉で対応する場合もある。	職員は年1回接遇の研修会に参加し、知識を深めるとともに日々の支援内容の振り返りを行っている。また、入居者の今までの生活歴を把握し尊厳保持に留意しながら接するよう心掛け、常に丁寧な言葉遣いで対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをお聞きするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にできるだけ応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせて、洋服を選んだり更衣したりする。洋服がよごれているときは、声かけし更衣を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢となられ、準備ができなくなってこられた。手伝っていただける食材があるときは、野菜の筋とり等願います。配膳や、トレー拭き等も願います。	ホームでは入居者にとって食事が楽しいものとなるよう陶器の食器を使用しており、食材の温かさを感じることができる。食事は入居者個々に応じた形態で提供しており、ミキサー食を提供する際には料理名や食欲が湧くような言葉掛けを行い、食事が楽しい雰囲気となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの体調に合わせて、食事量の調節をしている。誤嚥が心配な利用者さんには、とろみ食やミキサー食にする等対応する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを実施。自力でできない方は、職員が介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、利用者さんの排泄パターンをみて、トイレ誘導している。	職員は排泄チェック表を活用し誘導することで入居者のトイレでの排泄に繋げるほか、居室の環境整備を行い、トイレで排泄できるよう支援している。必要時にはL字ベッド柵などを購入し、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔が長くならないように、水分摂取を促す、バナナ・芋類を提供する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	とりあえず、月・水・金の午後に入浴日は決めているが、特に不満を聞いていない。体調に合わせて、清拭、シャワー浴等も実施。	脱衣所は浴室と温度差が生じないよう冷暖房やヒーターを使用し、入居者が快適に入浴できるよう配慮している。職員はゆず湯を準備するなど季節に応じて工夫し、入浴が楽しいものとなるよう努めている。入浴を拒否する方については時間や声掛け方法を変えるなど工夫し、状況に応じて清拭を行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度や外光にも配慮して、調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診・往診後、処方箋の確認。前回と変わっているときは口頭とともに記録して申し送る。ひとりひとりの薬を用意、声を出して確認、服用するまで確認する。薬についての研修を受講している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、トレーを拭く、紙袋作り。頭の体操(数並べ・文字並べ)。散歩。個人にあわせた役割、楽しみで気分転換されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか戸外に出られないが、馴染みの美容室に行ったり、自宅訪問したり、お寺に行ったり等の支援は行えた。	ホームでは毎朝30分程屋外を散歩したり外気浴を行ったりすることで入居者の気分転換を図っている。また、受診の帰りに入居者が希望する場所を訪れたり、買い物をしたりするなど入居者の希望に沿うよう努めている。職員は家族と外泊する際に車椅子の使用法や排泄面の助言を行うことで外泊が楽しいものとなるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理されている方はいない。買い物の希望あるときは、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が過ごしやすくなるよう、掲示物の工夫をし、食堂に季節の花を飾る等の環境整備をしている。湿度、室温の管理も配慮している。	ホーム共有空間は天井が高く開放感があり、大きな掃き出し窓からは光が差し込み、明るく温かな空間となっている。ホールからは洗濯物や隣接する畑を見ることができ、家庭的な雰囲気が感じられ、畳の間もありゆっくりと寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごされている。自力でできない方は、職員が移動の援助をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の壁に家族の写真や絵を飾られている。利用者さんの動線を考えて、ベッド・ソファの位置を決めて、使いやすくしている。	居室のベッドや家具は入居者個々の身体状況に合わせた自立を支援する配置となっている。大きな窓からは光が差し込み明るい空間となっており、家族写真や絵が飾られている。室内は職員が毎日清掃を行い清潔に保たれており、地震時の落下物など安全面に配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は手すりがついており、バリアフリーになっている。自室と共用空間との行き来が、自力でできるようになっている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 あさひが森B

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の職員会議の冒頭に全員で唱和し、意識付けをし、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「あさひが森のつどい」を年1回行い地域交流の良い場になっている。地区の自治会と合同の避難訓練を実施した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近辺の方の入所もあり、地域における認知度はある。家族や地域の方の話を聞き、支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地区民生委員さんからの意見をお聞きできる良い機会である。行政や地域駐在署よりの情報・意見などもお聞きし、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの方からの問い合わせ、紹介もあり、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は交替で身体拘束の研修にも出かけている。身体拘束をしないケアにとりくんでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修に参加し、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解を深めるため、研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解し納得していただけるように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望など、面会時にお聞きし、職員・管理者で共有し運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議にて、要望・意見など聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を奨励し、研修の受講をよびかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、研修・交流する機会がある。サービスの向上の取り組みになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の印象を大事にし、まず挨拶を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前の事前の資料に目を通して、会話をしながら、さらに要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援は何かを選び、急がず職員と話し合いながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護するばかりという現実もある。ただ生活の場を共有する者同士、お互い様の視点を持ちたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の間が良好である事が大切であり、ホームに入所しても、今までと変わらない関係作りが大事だと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム便りを送るときに、最近の利用者さんの様子をお知らせしている。馴染みの方が来られた時は、お茶を出し、ゆっくりしていただいている。利用者さんとの会話の中でのいろいろな思い出を共有している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんひとりひとりの思いは違うので、近すぎず、また離れすぎにならないように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族の再訪や、お便りをいただいたこともある。ホーム以外でお会いしたときに挨拶ができ、謝意を伝えられると喜びがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム来所時等に家族から、お聞きするようにしている。ご本人の思いの表出は少ないので、会話や表情などから知るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にお聞きした生活歴や日常の会話の中から把握するよう努めている。家族からの情報とともに、以前の介護歴から多職種の情報も得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの日常生活記録・排泄表・食事量・会話から、現在の心身の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さん、家族、職員、看護師を含めた意見交換を行う。利用者さん・家族の要望にすこしでも近づけるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者さんの心身の変化について、大小に関わらず、日々の情報共有が大切。その上で、月に1回はケア会議を開き、計画実践、見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に応じて、柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児との交流を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続して受診するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師は、非常時以外は、週1回健康把握にきている。1週間の利用者さんの変化を報告し、受診した場合は主治医からの指示を看護師に伝えている。看護師の気づきは口頭とともに、看護業務日誌に記録し情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となられたときは、管理者や時には、職員が病院に顔を出している。病院の看護師と情報共有等することもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご家族と今後のことも含めて話し合うようにしている。体調不良になられたとき等にも、随時話し合う。利用者さんと家族の意志を尊重する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、外部研修に参加するようにしている。怪我をしたときは、連携看護師に連絡し処置、または指示をもらう。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	荘内、全館禁煙。年2回消防署立ち会いのもと、避難・消防訓練を実施。地域の自治会の方と合同での訓練も実施している。月に1回は、防火管理自主点検表を記録。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんを年長者として、尊敬し、言葉遣いも注意している。利用者さんによっては、馴染みの言葉で対応する場合もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いをお聞きし、自己決定を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切にしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせて、洋服を選んだり更衣したりする。洋服がよごれているときは、声かけし更衣を促している。出張散髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢となられ、準備ができなくなってこられた。手伝っていただける食材があるときは、野菜の筋とり等お願いする。トレー拭き等もお願いする。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの体調に合わせて、食事量の調節をしている。誤嚥が心配な利用者さんには、とろみ食やミキサー食にする等対応する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを実施。自力でできない方は、職員が介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、利用者さんの排泄パターンをみて、トイレ誘導したり、パットの交換をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日リハビリ体操をしている。また、排便間隔が長くないように、水分摂取を促したり、メニューの中でバナナ・芋類を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	とりあえず、月・水・金の午後に入浴日は決めているが、特に不満を聞いてない。体調に合わせて、浴槽内に入る、シャワー浴にする、清拭にする等している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度や外光にも配慮して、調整している。食事後は、自室にてゆっくりされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診・往診後、処方箋の確認。前回と変わっているときは口頭とともに記録して申し送る。ひとりひとりの薬を用意、声を出して確認、服用するまで支援する。薬についての研修を受講している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	トレーを拭く、頭の体操(数並べ・文字並べ)。個人にあわせた役割、楽しみで気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの庭の季節の花を眺めに行く。ある利用者さんは、家族の支援で娘さんの家に外泊したり、もう一人の方は、温泉に行ったりされた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理されている方はいない。買い物の希望あるときは、支援している。持っている方が安心する方は、額を確認して、財布のなかに入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が過ごしやすくなるよう、掲示物の工夫をし、食堂に季節の花を飾る等の環境整備をしている。湿度、室温の管理も配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居場所を決め、過ごされている。自力でできない方は、職員が移動の援助をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室の壁に家族の写真や絵を飾られている。利用者さんの動線を考えて、ベッド・ソファの位置を決めて、使いやすくしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室と廊下の段差をなくし、廊下にてすりをつけ、バリアフリーにし、自立した生活ができるように支援している。		